

## 講師のプロフィール



なか の とも え  
中 野 巴 絵

1983年 白老町生まれ。

苫小牧駒澤大学在学中に先住民交流を体験した事により、本格的にアイヌ語の勉強を始める。アイヌ語指導者育成講座、アイヌ語上級講座を受講した後、白老親と子のアイヌ語教室の講師を担当する。

現在、財団法人アイヌ民族博物館伝承課事業普及係として勤務。

### 協力者の紹介

おか だ みち あき  
岡 田 路 明

札幌市生まれ、現在は白老町在住。苫小牧駒澤大学教授。  
このテキストの原稿執筆を担当。

### 【このテキストのアイヌ語と表記の仕方について】

現在のところアイヌ語には共通語というものはなく、それぞれの地域でそれぞれの方言が学ばれています。そのため、このテキストでは担当講師の方言（白老の方言）をベースにしています。

## アイヌ語ラジオ講座のスケジュール表

月	日	LESSON	テ - マ	ページ
7月	4日	14	基本的な語順 復習1	6
	11日	15	基本的な語順 復習2	8
	18日	16	基本的な語順 復習3	10
	25日	17	簡単な表現4「数の数え方1」	12
8月	1日	18	人称接辞1(1人称単数 私、あなた)	14
	8日	19	人称接辞2(2人称複数 あなたたち)	16
	15日	20	人称接辞3(1人称複数 話し相手を含まない)	18
	22日	21	人称接辞4(1人称複数 話し相手を含む)	20
	29日	22	簡単な表現5「数の数え方2」	22
9月	5日	23	人称接辞5(自動詞と他動詞)	24
	12日	24	人称接辞6(1人称、2人称の復習)	26
	19日	25	人称接辞7(3人称 彼、彼女)	28
	26日	26	簡単な表現6「数の数え方3」	30

## アイヌ語の表記方法

アイヌ文化は文字を持たない文化です。そこで、アイヌ語を書き表すには、カタカナやローマ字が用いられます。どちらも一長一短があり、どちらが使いやすいとは言えませんが、初めの内はカタカナで書いた方がわかりやすいのではないのでしょうか。

ア イ ウ エ オ

a i u e o

カ キ ク ケ コ

ka ki ku ke ko

サ シ ス セ ソ

sa si su se so

タ - トウ テ ト チャ チ チュ チェ チョ

ta tu te to ca ci cu ce co

ナ ニ ヌ ネ ノ

na ni nu ne no

ハ ヒ フ ヘ ホ パ ピ プ ペ ポ

ha hi hu he ho pa pi pu pe po

マ ミ ム メ モ

ma mi mu me mo

ヤ - ユ イエ ヨ

ya yu ye yo

ラ リ ル レ ロ

ra ri ru re ro

ワ - - ウエ ウオ

wa we wo

ン イ ウ ク ツ プ ム シ ラ リ ル レ ロ

n y w k t p m s r r r r r

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

## 例文



- フッチ トウレブ カラ。  
hutci turep kar.  
おばあさん オオウバユリ 採る
- タン トペンペ ソンノ ケラアン。  
tan topenpe sonno keraan.  
この お菓子 本当に おいしい
- サク エク ワ ポンパキ レク。  
sak ek wa ponpaki rek.  
夏 来る て セミ 鳴く
- タンパ カ ポプケ サク エク。  
tanpa ka popke sak ek.  
今年 も 暑い 夏 来た
- タンパ カ サク エク コロカ ナア メアン。  
tanpa ka sak ek korka naa mean.  
今年 も 夏 来た けれど まだ 寒い

## 日本語訳



- おばあさんがオオウバユリを採った。
- このお菓子は本当においしい。
- 夏が来てセミが鳴いている。
- 今年も暑い夏が来た。
- 今年も夏が来たけれど、まだ寒い。

## 単語



アイヌ語	日本語訳	備考
フッチ	hutci	おばあさん
トウレブ	turep	オオウバユリ
カラ	kar	～を採る
タン	tan	この
トペンペ	topenpe	お菓子
ソンノ	sonno	本当に
ケラアン	keraan	おいしい
サク	sak	夏
エク	ek	来る
ワ	wa	～して
ポンパキ	ponpaki	セミ
レク	rek	鳴く
タンパ	tanpa	今年
カ	ka	～も
ポプケ	popke	暑い
コロカ	korka	～したけれど
ナア	naa	まだ
メアン	mean	寒い

## 解説



アイヌ語の語順は、日本語の語順と似ています。ただし、同じ言語ではありません。今回は例文を少し長くしましたが、基本的には日本語と同じ並びになります。このようにテキストの例文だけ見ていると、アイヌ語は日本語ととてもよく似ているようにも見えますが、伝承者の方々が話されるアイヌ語を実際に聞くと、日本語とは随分違った言語だと感じます。

なお、「おばあさん」を白老では「フッチ」と発音しますが、全道的には「フチ」と発音しますので、他の地方でアイヌ語を話される方は「フチ」と覚えた方が良いでしょう。

## 文化紹介

## レパ(海漁)

漁労は、海漁、川漁、海浜採取の三つに分けることができます。海漁で捕獲されたのは、クジラ、アザラシ、オットセイ等の海獣類、カジキ、マンボウ等の大型魚類、カレイ、ニシン、イワシ等の小型魚類でした。川漁では、サケ、マス、ウグイ等が捕獲されていました。海浜採取ではタコ、ホタテ、ホッキ、コンブ等の波によって浜辺に打ち上げられた魚貝類や海藻類が採取されました。

白老のような海に面する地域では、漁労は重要な食料調達手段でした。そのため、一年を通して盛に行われました。その分、山猟にかかる時間は少なく、山猟を行う人もあまりいませんでした。



マレク(突き鉤)

## 例文



1.ヌマン アプト ソモ アシ。

numan apto somo as.  
昨日 雨 ~ない 降る

2.サク エク コロカ ポンパキ ソモ レク。

sak ek korka ponpaki somo rek.  
夏 来る けれど セミ ~ない 鳴く

3.ヌマン アプト アシ カ ソモ キ。

numan apto as ka somo ki.  
昨日 雨 降る ~もしない

4.サク エク コロカ ポンパキ レク カ ソモ キ。

sak ek korka ponpaki rek ka somo ki.  
夏 来る けれど セミ 鳴く ~もしない

5.タンペ アエブ カ ソモ ネ。

tanpe aep ka somo ne.  
これ 食べ物 ~ではない

6.イテッケ オイラ ヤン。

itekke oyra yan.  
決して 忘れる ~してください

7.イテキ モコロ。

iteki mokor.  
決して 眠る

## 日本語訳



1. 昨日雨は降らなかった。
2. 夏が来たけれど、セミは鳴かない。
3. 昨日雨は降らなかった。
4. 夏が来たけれど、セミは鳴かない。
5. これは食べ物ではありません。
6. 決して忘れないでください。
7. 眠るな。

## 単語



アイヌ語	日本語訳	備考
ヌマン	numan	昨日
アプト	apto	雨
アシ	as	降る
ソモ	somo	~ない
カ ソモ キ	ka somo ki	~もしない
タンペ	tanpe	これ
アエブ	aep	食べ物
カ ソモ ネ	ka somo ne	~ではない
イテッケ	itekke	~するな
オイラ	oyra	忘れる
ヤン	yan	~しなさい ~してください
イテキ	iteki	~するな
モコロ	mokor	眠る

## 解説



アイヌ語の語順は、日本語の語順と似ています。ただし、否定の表現では「ソモ＝～ない」という語が、否定しようとする動詞の前に付きますから、日本語の語順とは違った並びになります。ただし、「カ ソモ キ＝～もしない」を使って否定の表現をすると、動詞の後に付きますから、日本語の語順に近くなります。

「ソモ」と同じように、禁止の命令も否定の表現と同じ語順になります。「～するな」という表現ですが、基本的には「～しない」と同じように否定を表していますので、動詞の前に「イテッケ」もしくは「イテキ」を付けて否定します。

また、「ヤン」を付けた表現は、複数の人たちに命令をする場合や、丁寧な命令、即ち「～してください」という意味で、目上の人に動作を促すときなどに使われます。この「ヤン」を付けた表現は後のLessonでも説明します。

## 文化紹介

## トイタ

「トイタ(農耕)」は、明治になってから本格的に行われるようになりました。それ以前は、家の近くや川原などで僅かな面積の畑を作り、食に変化を付ける程度のトイタを行っていました。そこではアワ、ヒエ、ソバ、マメ等が作られました。穀物類が主に栽培され、ダイコンなどの野菜類も早くから作られていました。また、幕末期くらいからはジャガイモなども栽培されるようになりました。

トイタは、主に女性や子どもの仕事でした。男性は海漁や山猟に忙しく、トイタをする時間が取れませんでした。特に山猟では、一度猟に出かけると短くても数日、長いときでは十数日も家に戻れませんので、その間は女性が家周りの仕事をしていました。

## 例文



1. ウララ アツテ。  
urar atte.  
霧 かかる
2. セタ ホユプ。  
seta hoyupu.  
イヌ 走る
3. スマ エヤブキリ。  
suma eyapkir.  
石 投げる
4. チクニ ペレパ。  
cikuni perpa.  
薪 割る
5. チャペ チェブ エ。  
cape cep e.  
猫 魚 食べる
6. チロンヌブ イセポ コイキ。  
cironnup isepo koyki.  
キツネ ウサギ 捕る
7. カスプ ス オマレ。  
kasup su omare.  
柄杓 鍋 入れる

## 日本語訳



1. 霧がかかる。
2. イヌが走る。
3. 石を投げる。
4. 薪を割る。
5. 猫が魚を食べる。
6. キツネがウサギを捕る。
7. 柄杓を鍋に入れる。

## 単語



アイヌ語	日本語訳	備考
ウララ urar	霧	
アツテ atte	かかる	
ホユプ hoyupu	走る	
スマ suma	石	
エヤブキリ eyapkir	～を投げる	
チクニ cikuni	薪	
ペレパ perpa	～を割る	
チャペ cape	猫	
チェブ cep	魚	
エ e	～を食べる	
チロンヌブ cironnup	キツネ	
イセポ isepo	ウサギ	
コイキ koyki	～を捕る	
カスプ kasup	柄杓	
ス su	鍋	
オマレ omare	～を～に入れる	

## 解説



アイヌ語には「格助詞」の「～が」「～に」「～を」にあたる語が存在しません。よって、単語を並べるだけで表現することができます。日本語を母語とする人は、「格助詞」の使い方をとても注意して話しますので、「が、に、を」がないということは楽な反面、何か物足りなさを感じるかもしれません。

また、「が、に、を」を付けないということは、例文7のように「柄杓を鍋に入れる」と表現したときには「柄杓に鍋を入れる」とも取れますので、少し不便ではないかとも思われます。ただし、多くの場合逆は考え難いので、それほど不便はありません。

## 文化紹介

## アエッ

自然から得られる食べ物や農作物などの「アエッ(食料)」は、保存処理をされて蓄えられました。陸獣や海獣の肉、あるいは大型魚の肉などは細く切って天日干しにし、ある程度水分を抜いてから炉の上で燻しをかけて燻製にしました。燻製による保存は、アイヌ文化では頻繁に行われる保存処理方法で、獣の肉や魚の肉の他にも植物や加工食品などもこの方法で保存されました。

また、独特な保存処理としては、オオウバユリの球根やジャガイモを醗酵させることによって安定化し、加工食品とする方法もありました。

こうして食料を貯えて置くことで、自然の変動で恵みが少なくなっても困ることなく、一年を通じてバラエティーに富んだ食生活を維持していました。



ブ(食糧庫)

## 例文



1. シネブ。 トウブ。 レブ。 イネブ。 アシクネブ。  
 sinep. tup. rep. inep. asiknep.  
 1個 2個 3個 4個 5個

イワンペ。 アラワンペ。 トウペシ。 シネペシ。 ワンペ。  
 iwanpe. arwanpe. tupes. sinepes. wanpe.  
 6個 7個 8個 9個 10個

2. シネノンノ。 トウユク。 レケリ。 イネオッチキ。  
 sinenonno. tuyuk. reker. ineotciki.  
 1輪の花 2頭のシカ 3足の靴 4脚の膳

アシクネトマ。 イワンアイ。 アラワンパシクル。  
 asiknetoma. iwanay. arwanpaskur.  
 5枚の莫塵 6本の矢 7羽のカラス

トウペシチェブ。 シネペシチセ。 ワンチブ。  
 tupescep. sinepescise. wancip  
 8匹の魚 9軒の家 10隻の舟

## 解説



アイヌ語で数を数えるときは、何を数えるかによって数え方が違います。日本語で数を数えるときは、魚は1匹2匹、熊などの大きめの動物は1頭2頭などと助数詞を付けて数えます。アイヌ語には助数詞にあたる品詞はありませんが、何を数えるかによって、数の後に付く言葉が違います。

数の概念としてのシネ、トゥ、レを、それだけで数えることは殆どなく、数えるものによって、魚ならシネチェブ、トウチェブ、イヌならシネセタ、トゥセタと数えます。例文のようにシネブ、トゥブ、レブという数え方は、多くの物

を1個2個と数えるときに使われます。

概念としての数は、シネ(1)トゥ(2)レ(3)イネ(4)アシクネ(5)イワン(6)アラワン(7)トゥペサン(8)シネペサン(9)ワン(10)です。シネブとかイワンペなどは、名詞を作る「ブ」とか「ペ」を付けたものです。

また、白老では8個と9個をトゥペシ、シネペシ、と数えますが、多くの地方ではトゥペサンペ(8個)、シネペサンペ(9個)、と数えます。ただし、白老でもトゥペサンペ、シネペサンペは8個及び9個の意味だと認識されています。

## 単語



アイヌ語	日本語訳	備考
ユク	yuk	シカ
ケリ	ker	靴
オッチキ	otciki	膳
トマ	toma	莫塵
アイ	ay	矢
パシクル	paskur	カラス
チブ	cip	舟

## MEMO

## 文化紹介

## チセ1

「チセ(家)」はコタンの人びとが力を合わせて建てました。現在のように、大工を専門とする職業はなく、コタンの人びとがそれぞれの役割を分担しながら建てました。

建築材料は、その地域で最も得やすい素材が使用されました。そのため、地域によって材料が違い、外観も違っていました。白老では、屋根や壁の材料としてカヤ(ススキ、アシ等)が使用されていました。旭川地方などではクマイザサが、道東などではトドマツなどの樹皮が使われました。

内部は基本的に一間で、ほぼ中央に炉が切られていました。炉で燃える火は、そこに住む人々を見守るカムイ(神)として敬われていたために、毎日の生活は炉を中心に営まれました。



チセ(家)

## 例文



## 1. ワッカ クク。

wakka ku=ku.

水(私) 飲む

## ワッカ エク。

wakka e=ku.

水(あなた) 飲む

## 2. ケラアン トペンペ クエ。

keraan topenpe ku=e.

おいしい お菓子 (私) 食べる

## ケラアン トペンペ エエ。

keraan topenpe e=e.

おいしい お菓子 (あなた) 食べる

## 3. セタ トウラ クアプカシ。

seta tura ku=apkas.

イヌ 一緒に (私) 歩く

## セタ トウラ エアプカシ。

seta tura e=apkas.

イヌ 一緒に (あなた) 歩く

## 4. オタル ウン クオマン。

otaru un ku=oman.

小樽 へ (私) 行く

## オタル ウン エオマン。

otaru un e=oman.

小樽 へ (あなた) 行く

## 5. テエタ オルシペ クイエ クス ヌ ヤン。

teeta oruspe ku=ye kusu nu yan.

昔 話し (私) 話す ので 聞く ~してください

## 日本語訳



- |                           |                     |
|---------------------------|---------------------|
| 1. (私が) 水を飲む。             | (あなたが) 水を飲む。        |
| 2. (私が) おいしいお菓子を食べる。      | (あなたが) おいしいお菓子を食べる。 |
| 3. (私が) イヌと一緒に歩く。         | (あなたが) イヌと一緒に歩く。    |
| 4. (私が) 小樽へ行く。            | (あなたが) 小樽へ行く。       |
| 5. (私が) 昔の話しをするので聞いてください。 |                     |

## 単語



アイヌ語		日本語訳	備考
ワッカ	wakka	水	
ク	ku	人称接辞(私)	
ク	ku	~を飲む	
エ	e	人称接辞(あなた)	
トウラ	tura	~と一緒に	
アプカシ	apkas	歩く	
ウン	un	~へ	
オマン	oman	行く	
テエタ	teeta	昔	
オルシペ	oruspe	話し	
イエ	ye	~を話す	
クス	kusu	~なので	
ヌ	nu	~を聞く	

## 解説



「人称接辞」は聞きなれない言葉かも知れません。アイヌ語は動作を使うとき、その動作を誰が行うのかを言い表さなければならない言語です。「人称接辞」は、日本語にはありません。そのため、日本語の「私」とか「あなた」といった「人称代名詞」とは違い、日本語に訳すことのできない単語です。アイヌ語にも「人称代名詞」はありますが、「人称代名詞」を付けて「私」「あなた」と動作をする人物を特定したとしても、「人称接辞」を省くことはできません。

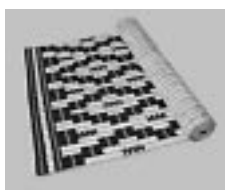
## MEMO

## 文化紹介

## チセ2

アイヌ民族にとってチセは生活の中心であり、安息の場所でした。家族はチセの中で、現在の社会と同じように家庭生活を営む上で必要な仕事をそれぞれ役割分担しながら、日々を過ごしていました。

男性は猟具の手入れやイナウ(御幣)、イクパスイ(酒捧篋)などの信仰用具の作製、女性は着物、ゴザの作製や食事の支度、そして子供たちは水くみや子守など親の仕事の手伝いを行っていました。



ゴザ

## 例文



1. ワッカ エチク。  
wakka eci=ku.  
水 (あなたたち) 飲む
2. ケラアン トペンペ エチエ。  
keraan topenpe eci=e.  
おいしい お菓子 (あなたたち) 食べる
3. セタ トウラ エチアプカシ。  
seta tura eci=apkas.  
イヌ 一緒に (あなたたち) 歩く
4. オタル ウン エチパイエ。  
otaru un eci=paye.  
小樽 へ (あなたたち) 行く
5. ニサッタ エチホシツパ ワ エチアリキ。  
nisatta eci=hosippa wa eci=arki.  
明日 (あなたたち) 帰る ~て (あなたたち) 来る

## 日本語訳



1. (あなたたちが) 水を飲む。
2. (あなたたちが) おいしいお菓子を食べる。
3. (あなたたちが) イヌと一緒に歩く。
4. (あなたたちが) 小樽へ行く。
5. (あなたたちが) 明日帰って来る。

## 単語



アイヌ語	日本語訳	備考
エチ eci	人称接辞 (あなたたち)	
パイエ paye	行く (複)	
ニサッタ nisatta	明日	
ホシツパ hosippa	帰る (複)	
アリキ arki	来る (複)	

## 解説



「人称接辞」の「2人称複数形」です。単数形と変わりませんが、動詞に単数形と複数形がある場合は、複数形を使わなければなりません。単複が同じ単語は、そのまま「人称接辞」だけを複数形にすることができます。

## MEMO

## 文化紹介

## ウポボ、ヤイサマ

アイヌ文化には多くの口承文芸があります。ユカラやサコロベを始めとする口承文芸は、アイヌ文化の中で作られ、発展しながら現在に生きています。その中にはさまざまなジャンルがあり、日常の生活や儀式のときなど、多くの場面で口承文芸が語られています。

その中でも、「ウポボ (歌)」は日常の生活や儀式のときなど、人びとが集まって興じるときには盛に歌われています。ウポボを歌うときは、主に女性がシントコ (行器) と呼ばれる漆器の蓋の周りに座り、蓋を叩いて拍子を取りながら歌いました。

「ヤイサマ」は叙情歌です。多くは即興で語られました。本来は、そのときどきの気持ちを語るものですが、最近ではかつて記録されたヤイサマをモデルに、その内容通りに歌うようになりました。



## 例文



- クホユプ。  
ku=hoyupu  
(私) 走る
- ホユプパアシ。  
hoyuppa=as.  
走る (私たち)
- ポロンノ アプカシアシ。  
poronno apkas=as.  
たくさん 歩く (私たち)
- オタル ウン パイエアシ。  
otaru un paye=as.  
小樽 へ 行く (私たち)
- ワッカ チク。  
wakka ci=ku.  
水 (私たち) 飲む
- ムン チオスルパ。  
mun ci=osurpa.  
ごみ (私たち) 捨てる
- テエタ オルシペ チイエ クス ヌ ヤン。  
teeta oruspe ci=ye kusu nu yan.  
昔 話し (私たち) 話す ので 聞く ~してください

## 日本語訳



- (私が) 走る。
- (私たちが) 走る。
- (私たちが) たくさん歩く。
- (私たちが) 小樽へ行く。
- (私たちが) 水を飲む。
- (私たちが) ごみを捨てる。
- (私たちが) 昔の話しをするので聞いてください。

## 単語



アイヌ語		日本語訳	備考
ホユプ	hoyupu	走る	
ホユプパ	hoyuppa	走る (複)	
アシ	as	人称接辞 (私たち)	
ポロンノ	poronno	たくさん	
チ	ci	人称接辞 (私たち)	
ムン	mun	ごみ	
オスルパ	osurpa	~を捨てる (複)	

## 解説



「人称接辞」の「1人称複数形」は少し難しいので、覚えるのは大変です。動詞に単複の違いがあるときは、複数形を使います。また、動詞が「自動詞」なのか「他動詞」なのかによって、「人称接辞」の付く位置と単語が異なります。

今回の「私たち」という人称接辞には、話し相手は含まれません。日本語ではこの使い分けをしますが、アイヌ語では「話し相手が含まれない」のか「含まれる」のかを、「人称接辞」を使い分けることによってはっきり表現します。

## MEMO

---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---

## 文化紹介

## カムイユカラ

「カムイユカラ」は、神様が自分の体験談を語る物語です。ひとつひとつのカムイユカラには、それぞれ独特のメロディと繰り返しのフレーズがついています。そのため、他の物語よりもより“歌”に近い感じで語られます。

カムイユカラは「神がどのような経験をしたか」という内容で語られることが多いのですが、その中には神と人間との関係や、なぜその神が存在するのかといった事柄が含まれ、それを聞いた人びと、特に子どもたちにとっては社会の中で生きていく上での基本的な知識が含まれています。

## 例文



- 1.クホユプ。  
ku=hoyupu.  
(わたし)走る
- 2.ホユッパアン。  
hoyuppa=an.  
走る(私たち)
- 3.ポロンノ アツカシアン。  
poronno apkas=an.  
たくさん 歩く(私たち)
- 4.オタル ウン パイエアン。  
otaru un paye=an.  
小樽 へ 行く(私たち)
- 5.ワッカ アク。  
wakka a=ku.  
水 (私たち)飲む
- 6.スマ アウイナ。  
suma a=uyana.  
石 (私たち)受け取る
- 7.テエタ オルシペ アイエ。  
teeta oruspe a=ye.  
昔 話し (私たち)話す

## 日本語訳



1. (私が) 走る。
2. (私たちが) 走る。
3. (私たちが) たくさん歩く。
4. (私たちが) 小樽へ行く。
5. (私たちが) 水を飲む。
6. (私たちが) 石を受け取る。
7. (私たちが) 昔の話しをする。

## 単語



アイヌ語		日本語訳	備考
アン	an	人称接辞(私たち)	
ア	a	人称接辞(私たち)	

## 解説



前回と同じ「人称接辞」の「1人称複数形」です。前回との違いは、同じ「私たち」でも、今回は話し相手も含んでの「私たち」という意味になります。

MEMO

## 文化紹介

## ユカラ

「ユカラ」はアイヌ文化の口承文芸として有名です。しかし、ユカラがアイヌ文化の口承文芸を代表するものではありません。アイヌ文化にはさまざまな口承文芸があって、どれも同じように重要な存在です。

ユカラは地方によってサコロベ、ハウキと呼ばれます。長いものは語り終えるまで一昼夜を要すると言われるほどで、その内容は英雄が活躍する物語になっています。物語をするときは、話者は節を付け、拍子を取って語ります。それに対し、聞き手も相槌を入れて聞きます。

## 例文



シネブイカシマワンペ。	トゥブイカシマワンペ。	レブイカシマワンペ。
sinepikasmawanpe.	tupikasmawanpe.	repikasmawanpe.
11個	12個	13個

イワンペイカシマワンペ。	アラワンペイカシマワンペ。
iwanpeikasmawanpe.	arwanpeikasmawanpe.
16個	17個

ホツネブ。	ワンペエトウホツネブ。	トゥホツネブ。
hotnep.	wanpeetuhotnep.	tuhotnep.
20個	30個	40個

ワンペエレホツネブ。	レホツネブ。	アシクネホツネブ。
wanpeerehotnep.	rehotnep.	asiknehotnep.
50個	60個	100個

シネブイカシマアシクネホツネブ。	トゥブイカシマアシクネホツネブ。
sinepikasmaasiknehotnep.	tupikasmaasiknehotnep.
101個	102個

MEMO

## 解説



数の数え方は地方によって、または人によって違いがあります。「数の数え方1」の解説にも書きましたが、白老では8個を「トゥベシ」、9個を「シネベシ」と数えます。あるいは、『アイヌ神謡集』の中では20を「トゥワン」、30を「レワン」と数えています。「ホツネブ」を「シネホツネブ=1×20個」と数える人もいます。

数の数え方が一定でないと不便ではないかと思われがちですが、日本語でも「ひとつ」「ふたつ」と数えたり、「1個」「2個」と数えたりしても不便はありませんので、数え方が違っていても幾つを指しているのかさえわかれば問題はありません。

MEMO

## 文化紹介

## ウエペケレ

節をつけずに語る、日本の昔話のようなものです。そこに語られているのは、かつて本当にあったと信じられている出来事であり、どこかの村に昔いた村長さんやその奥さんが、自分の稀有な体験談を子孫に語り残すというのが一般的なスタイルです。

ウエペケレは、日常会話に近い表現で語られ、人物の心理描写なども、現実味を帯びた内容になっています。

## 例文



1. モコロアシ。  
mokor=as.  
眠る (私たち)

モコロアン。  
mokor=an.  
眠る (私たち)

2. トノト            チク。  
tonoto            ci=ku.  
酒                    (私たち) 飲む

トノト            アク。  
tonoto            a=ku.  
酒                    (私たち) 飲む

3. トウキョウ      ワ                    ホシッパアシ。  
tokyo              wa                    hosippa=as.  
東京                から                   帰る (私たち)

トウキョウ      ワ                    ホシッパアン。  
tokyo              wa                    hosippa=an.  
東京                から                   帰る (私たち)

4. ケラアン        ケーキ              チエ。  
keraan            cake                  ci=e.  
美味しい          ケーキ              (私たち) 食べる

ケラアン        ケーキ              アエ。  
keraan            cake                  a=e  
美味しい          ケーキ              (私たち) 食べる

## 日本語訳



1. (私たちが) 眠る。
2. (私たちが) 酒を飲む。
3. (私たちが) 東京から帰る。
4. (私たちが) おいしいケーキを食べる。

## 単語



アイヌ語		日本語訳	備考
トノト	tonoto	酒	
ワ	wa	～から	

## 解説



「他動詞」と「自動詞」は、日本語では重要な品詞分けになっていませんが、アイヌ語ではとても重要です。特に、「人称接辞」の「1人称複数形」では、動詞が他動詞なのか自動詞なのかによって、「人称接辞」の単語と付く場所が変わります。

しかし、日本語では使い分けを気にしませんので、一見ただけではどの動詞が「他動詞」で、どの動詞が「自動詞」なのかは、見分けが付きません。簡単な見分け方はないので慣れるしかないのですが、「～を」と言える動詞は「他動詞」で、「～を」と言えない動詞は「自動詞」だと思っても、大きな間違いはありません。日本語との対比で説明しますと、他動詞は目的語を取る(目的語が必要な)動詞です。例えば、「ドアを開ける」と言ったときの「開ける」は他動詞です。何故なら、何を開けるのか(この場合はドア)という目的語を取ることができるからです。それに対し、自動詞は目的語を取らない(目的語は必要としない)動詞です。例えば、「ドアが開いている」と言ったときの「開いている」は自動詞です。何故なら、「何を」と言う目的語を取ることができないからです。

このように書くと意外と簡単に区別が付きそうですが、それをアイヌ語で判断すると単純に「～を」と言えない動詞も多く、とても複雑です。簡単に理解することは難しいのですが、慣れれば理解できるようになります。

## MEMO

## 文化紹介

## 山菜採取

漁狩猟を生業とするアイヌの人々にとって、野にある植物も重要な食糧でした。採取の時期と採れる植物名をあげると、春3月～5月にかけては、ギョウジャニンニク、フキ、ヨモギ、ウド、ワラビ、ゼンマイがあり、夏6月～8月にかけては、ウバユリ、エゾエンゴサク、ハスカップ、ハマナスなど、秋9月～11月にかけては、クリ、シコロ、ヒシの実、キノコ類がありました。これらの採取は女性の仕事で、自分たちの集落の領域であれば自由にできました。



シコロの実

## 例文



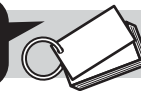
- |                                |                                  |              |                                  |
|--------------------------------|----------------------------------|--------------|----------------------------------|
| 1.クオマン。<br>ku=oman.<br>(私)行く   | エオマン。<br>e=oman.<br>(あなた)行く      |              |                                  |
| 2.パイエアシ<br>paye=as.<br>行く(私たち) | エチパイエ。<br>eci=paye.<br>行く(あなたたち) |              |                                  |
| 3.パイエアン<br>paye=an.<br>行く(私たち) |                                  |              |                                  |
| 4.ゲーム<br>Game<br>ゲーム           | クコロ<br>ku=kor<br>(私)持つ           | ワ<br>wa<br>て | クオマン。<br>ku=oman.<br>(私)行く       |
| 5.ゲーム<br>Game<br>ゲーム           | エコロ<br>e=kor<br>(あなた)持つ          | ワ<br>wa<br>て | エオマン。<br>e=oman.<br>(あなた)行く      |
| 6.ゲーム<br>Game<br>ゲーム           | エチコロ<br>eci=kor<br>(あなたたち)持つ     | ワ<br>wa<br>て | エチパイエ。<br>eci=paye.<br>(あなたたち)行く |
| 7.ゲーム<br>Game<br>ゲーム           | チコロ<br>ci=kor<br>(私たち)持つ         | ワ<br>wa<br>て | パイエアシ。<br>paye=as.<br>行く(私たち)    |
| 8.ゲーム<br>Game<br>ゲーム           | アコロ<br>a=kor<br>(私たち)持つ          | ワ<br>wa<br>て | パイエアン。<br>paye=an.<br>行く(私たち)    |

## 日本語訳



1. (私が) 行く。 (あなたが) 行く。
2. (私たちが) 行く。 (あなたたちが) 行く。
3. (私たちが) 行く。
4. (私が) ゲームを持って行きます。
5. (あなたが) ゲームを持って行きます。
6. (あなたたちが) ゲームを持って行きます。
7. (私たちが) ゲームを持って行きます。
8. (私たちが) ゲームを持って行きます。

## 単語



## アイヌ語

コロ

kor

## 日本語訳

～を持つ

## 備考

## 解説



「人称接辞」には、多くの種類があります。1人称なのか、2人称なのか、或いは単数なのか、複数なのかによってそれぞれ使い分けなければなりません。また、1人称複数形の場合は、動詞が「他動詞」なのか、「自動詞」なのかによっても「人称接辞」が異なります。

## MEMO

## 文化紹介

## イウォルについて

イウォルは、日々の生活の糧を得る場所のことです。つまり、シカやクマ、ウサギを自由に捕る猟場、クジラ、オットセイ、メカジキ、マグロなどの大型魚海獣を捕獲する海の猟場、サケやマスを捕獲する漁場、食用や薬用のための山菜類を採る場所を意味します。こうした天然資源を得るための場所は、集落ごとに決められていました。

## 例文



1. トマコマイ ワ ホシピ。  
tomakomai wa hosipi.  
苦小牧 から 帰る
2. トマコマイ ワ ホシプパ。  
tomakomai wa hosippa.  
苦小牧 から 帰る
3. ケラアン ケーキ エ。  
keraan cake e.  
美味しい ケーキ 食べる
4. クコロ サポ ケラアン ケーキ エ。  
ku=kor sapo keraan cake e.  
わたしの 姉 美味しい ケーキ 食べる
5. エコロ ハポ ピリカ アミブ ミ。  
e=kor hapo pirka amip mi.  
あなたの お母さん 美しい 着物 着る
6. アチャポ チクニ カラ ワ エク。  
acapo cikuni kar wa ek.  
おじさん 薪 取る て 来る

## 日本語訳



1. (彼、彼女が) 苦小牧から帰る。
2. (彼ら、彼女らが) 苦小牧から帰る。
3. (彼、彼ら、彼女、彼女らが) 美味しいケーキを食べる。
4. 私の姉が美味しいケーキを食べる。
5. あなたのお母さんは美しい着物を着ている。
6. おじさんが薪を取って来た。

## 単語



アイヌ語	日本語訳	備考
サポ	sapo	姉
ハポ	hapo	母
ピリカ	pirka	美しい
アミブ	amip	着物
ミ	mi	着る
アチャポ	acapo	おじさん

## 解説



「人称接辞」の3人称はありません。「人称接辞」を付けずに話しをすると、3人称で話しをしていることとなります。よって、動詞に「人称接辞」を付けないと、その動詞の動作をするのは「彼、彼女、彼ら、彼女ら」ということとなります。

## MEMO

## 文化紹介

## 信仰

アイヌの人々は、自然、動物、道具など、人間生活に関係する全ての事象に神の存在、あるいは神の化身を考え、ことあるごとに祈り、多くの儀礼を行います。

神はいつもは東の上方にある神々の世界(カムイモシリ)で、人間の姿をして、人間と変わらない生活をして常に人間を見守り、人間の世界に食糧や日用品などさまざまなものをもたらしてくれると考え、アイヌもまた神に対して、酒、イナウ(御幣)といった神が喜ばれるものを儀礼を通して与えるのです。



イナウ(御幣)

## 例文



1. シネン。 トウン。 レン。 イネン。 アシクネン。

sinen. tun. ren. inen. asiknen.

1人 2人 3人 4人 5人

イワニウ。 アラワニウ。 トウペサニウ。

iwaniw. arwaniw. tupesaniw.

6人 7人 8人

シネペサニウ。 ワニウ。 ホツネン。

sinepesaniw. waniw. hotnen.

9人 10人 20人

2. シネト。 トウツコ。 レレコ。 イワント。

sineto. tutko. rerko. iwanto.

1日 2日(2日間) 3日(3日間) 6日

3. シネパ。 トウパ。 レパ。 イワンパ。

sinepa. tupa. repa. iwanpa.

1年 2年 3年 6年(長い年月)

4. アラスイ。 トウスイ。 レスイ。 イワンスイ。

arsuy. tusuy. resuy. iwansuy.

1回 2回 3回 6回(何回も)

## 解説



数の数え方は、多くの場合数詞の後ろに数える物の名詞を付ければ良いのですが、数えるものによっては独特の数え方があります。人数を数えるときは、1人から5人までは数詞の後ろに「ン」を付けて「シネン」「トウン」と数え、6人から10人は後ろに「イウ」を付けて「イワニウ」「アラワニウ」と数えます。即ち、数詞の最後が母音で終わっているときは「n」を、子音で終わっているときは「iw」を付けて数えます。

日にちを数えるのは、少し複雑です。一般的に1日、2日と数えるときは、他のものを数えるときと同じように、数詞の後ろに「ト=日」を付けて「シネト」「トゥト」と数えて良いのですが、2日間、3日間と数えるときは「トゥッコ」「レレコ」と数えます。

年を数えるときは、数詞の後ろに「パ=年」を付けて数えます。ただし、「イワンパ」という表現は、「6年」という意味の他に「長い年月」という意味でも使われます。同じように、回数を数える表現でも「イワンスイ」は「何回も何回も」という意味でも使われます。なお、「イワンスイ」は「イワイスイ」と発音されることもあります。

## MEMO

## 文化紹介

## 祈りに使う用具

祈り際には、イナウ(御幣)とイクパスイ(酒棒籠)は絶対に欠かすことはできない重要なものです。人間の祈りはそのままダイレクトに神に伝わりません。両者の間を媒介する伝達者がいるのです。それがイナウとイクパスイです。

イナウは、ミズキ、ヤナギ、キハダ製が多く、マキリ(小刀)で薄く削ります。イクパスイはいろいろな木で作られ、表には彫刻を施します。地方によっては裏面の先端にパルンペ(口)と称する刻みをいれることがあります。



イクパスイ(酒棒籠)